

(表6) 原因別被害状況

○は死者で外数

Table with columns for cause (原因別), age group (学年別), and number of victims. Rows include categories like 'Signal violation' (信号無視), 'Crossing road' (横断歩道), etc.

(表7) 曜日別被害状況

Table with columns for day of the week (曜日別), age group (学年別), and number of victims. Rows include 'Sun' (日), 'Mon' (月), 'Tue' (火), etc.

表9によると、全般的に死傷者の件数が減少傾向にある中で、高校生の被害状況は被害前年比のとおり死者、傷

2、高校生の事故について
曜日別被害状況では、休業日と土曜日が平日より死傷者数が増えていることは一応うなずけるが、平日における数が増えれば合計で二百件を越えていることについては、前述の時間帯別発生件数からみてわかるように、事故のほとんどが帰宅後なので、特別かたよった曜日がないともいえる。
最後に過去十年間の交通事故の推移と、月別被害状況を図表化したものをのせたので指導資料として活用してほしい。(表10・11)

(表8) 通行目的別被害状況

○は死者で外数

Table with columns for purpose of travel (通行目的別), age group (学年別), and number of victims. Rows include 'School' (通学), 'Work' (業務目的), 'Leisure' (レジャー), etc.

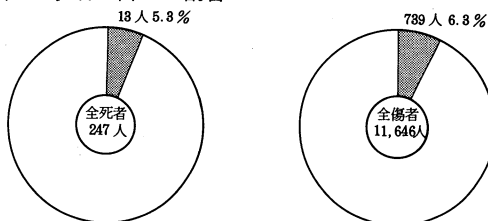
者とも前年を上回っている。更に年別推移では、(表13)全被害に占める割合が事故発生数のピークであった昭和四十五年の割合に近い値を示している。ただ発生

高校生の事故

(表9) 高校生の被害前年比

Table comparing the number of deaths and injuries in high school accidents between 1950 and 1949.

(図11) 全事故に占める割合



件数が減少と手離して喜んではいられない重大な現象であり、今後とも指導の徹底を図らなければならない。事故の発生が時間別被害状況から、午後四時から同八時ごろまでが多発時間帯であり、曜日別被害状況ではやはり週末に集中している。この現象は、学校における交通安全教育指導だけでは、その絶無を期すには非常に困難であると思われる。しかし、少しでも減少を願って指導を続け、安全指導はもちろんのこと、内面から、人命の尊重、車と人間とのモラル等についても指導する必要があるのではなからうか。